

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里南中学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

| | | |
|-----|---|---|
| 国 語 | 学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題 | C |
| 数 学 | 学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題 | B |
| 英 語 | 学習指導要領における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やりとり〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題 | B |

☆ 全国平均正答率との比較について

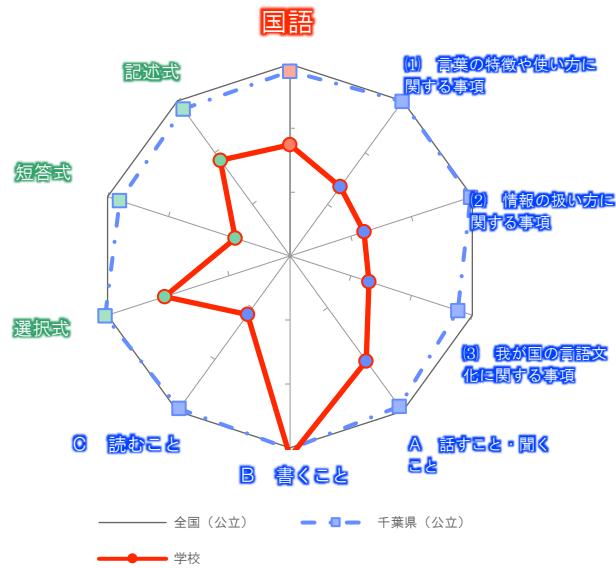
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



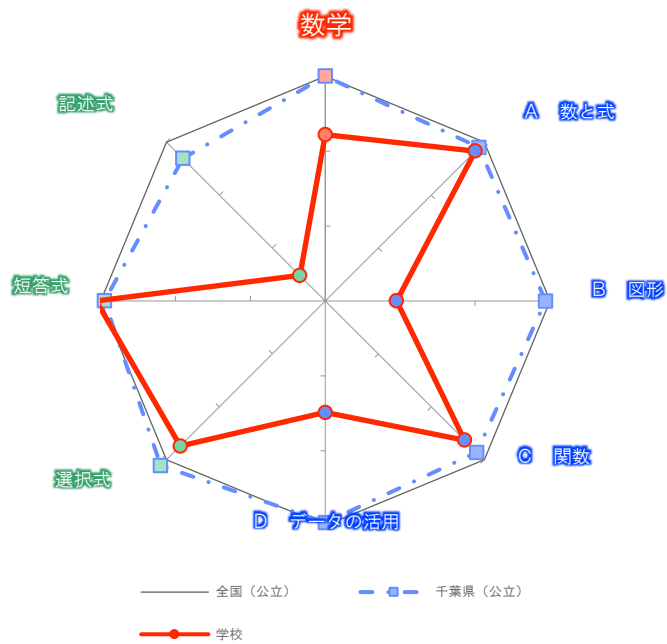
【特徴と現状】

- 思考力、判断力、表現力等『(C) 書くこと』においては県の平均と同じくらいの正答率でした。
- 説明的文章のように、長い文章や馴染みのない語句、概念が含まれた際には、その内容を読み解いていくことが困難だと思われます。
- 「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確に考えること」の正答率が著しく低く、また、この2つに関しては、無回答も多いということがわかりました。

【改善方策等】

- 初見の文章を多く読み、自力で問題を解いていく訓練を重ねることで、馴染みのない語句や概念が含まれた内容を読み解く力の向上を図るとともに、読むこと、書くことの改善を図ります。
- 授業でのまとめを自分の言葉で書く機会を増やしたり、学習した内容を振り返らせたりすることで、自分の言葉で表現する力の定着を図ります。
- 授業や定期テストを通して長文を読み、その中から必要な語句同士をつなぎ合わせ、自分の言葉として表現する機会を多く設けることで、記述式の問題を解く力の向上を図ります。
- 小人数やTTでの授業を行うことで、書くことや読む解くことに自信のない生徒にも意欲的に授業に取り組むよう支援していきます。

数 学



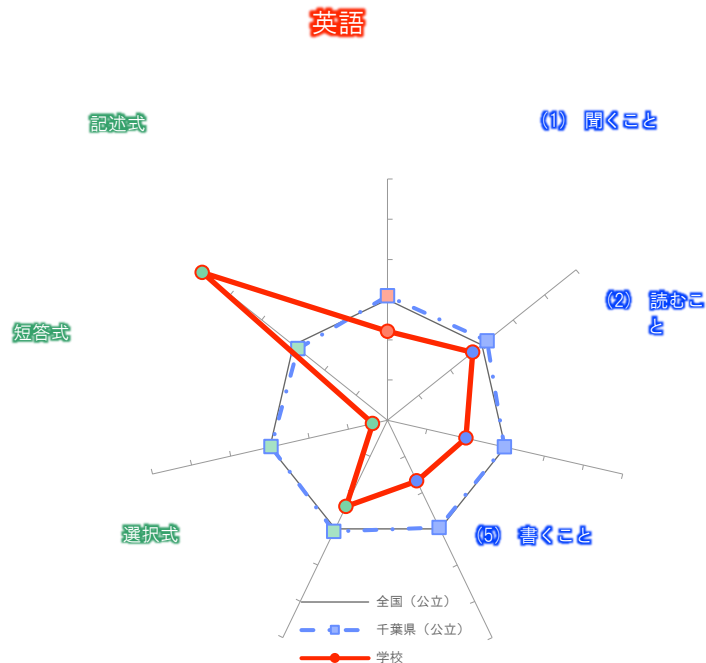
【特徴と現状】

- 領域では『図形』、評価の観点では『思考、判断、表現』、問題形式では『記述式』『データの活用』の正答率が、大きく県・全国平均を下回っています。
- 問題別では「証明」「空間図形」「計算結果を振り返り、元の数を見出す計算」「分布図の読み取り」に関しては、正答率が1～2割台と著しく低く、無回答率も高いです。

【改善方策等】

- 記述式問題の無解答を減らす取り組みとして、各単元で説明させる問題にかける時間を今まで以上に増やし、理解したことを互いに説明し合い学習が深められる指導を実践していきます。具体的には、2年生の「式の計算」の単元で、式による説明をできるだけ時間をかけて行い学習を深められる時間を確保します。
- 「図形」の問題で、書くことができなかった・無回答だった生徒は、物事を筋道立てて考えること、既習事項を利用して回答することを苦手とする生徒が多いと思われます。授業の中では理解したと感じても、知識が定着していないことが考えられます。家庭学習における数学科の時間を増やし、知識の定着が図れるようにしていきます。

英 語



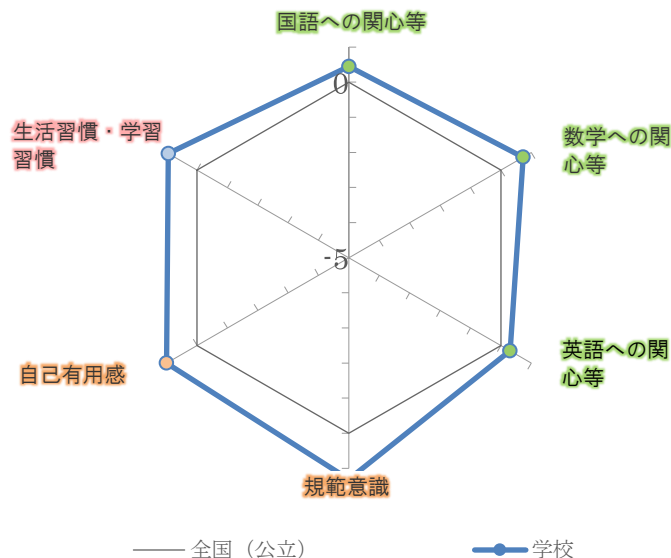
【特徴と現状】

- 『記述式』の正答率が、大きく県・全国平均を上回っています。千葉県、全国の平均も低いですが、試験の際「記述する」ことを意識していると考えられます。また、授業や家庭学習での小さな積み重ねが結果に出ていると考えられます。
- 『書くこと』『短答式』の正答率が2割台となっています。問題別で見ても、正答率が4割を切っている項目が7/17とかなり多いです。全体的に見ても正答率が7割を超えている項目が一つもないことから、今後の対策が必要です。

【改善方策等】

- ボキャブラリー・語彙力を増やしていくよう学習していきます。
そこから、英単語への興味関心に繋げ、構文や文章問題等の理解へ発展させていきます。
- 授業のはじめに教員とALTとの会話を多く実施し、英会話の楽しさを味わうことで、英語科への興味関心を更に高め、学習意欲に繋げていきます。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 生徒質問紙調査の結果から、例年と比べると全ての項目での意識が高くなっています。特に、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して、肯定的な回答が85%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒が90.4%と千葉県や全国の平均に比べると10%ほど高くなっています。
- 「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」に対する回答を見ると、「していない、全くしていない」の合計が22.7%。「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」に対する回答は、「していない、全くしていない」の合計が13.7%となっていました。これは、千葉県や全国の平均と同じ位です。昨年度、課題であった、生活習慣の改善が図れてきたと判断できますが、「朝食を毎日食べていますか」の問いに対して、13.7%が否定的な意見でした。この点を改善する手立てを講じていく必要があります。
- 全体的に意識は高く、学力も昨年度に比べると向上しました。しかし、全国や県の平均値を下回っているため、引き続き理解力を高める授業の実施と家庭学習の在り方を指導していきます。

3 まとめ

- 生徒の学力向上への意識が高くなってきたと考えられます。家庭学習への意欲も向上しています。今後は、より身につく家庭学習の在り方を考えていきたいと思えます。
- 今年度より、家庭学習のチェック表に保護者の確認チェック欄を設け、家庭学習を曜日ごとに教科を決めて実施するように変えました。保護者と連携を図り、どの教科もまんべんなく行えるように継続して行います。
- この状況がさらに良くなるように小中連携の取り組みとして「小中9年間を見通した家庭学習の手引き」の作成等を行いました。子ども達が自主的に学習に取り組み、学力向上が図れるようにしていくことが求められます。引き続き、各ご家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。